

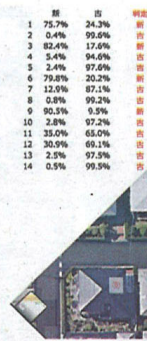
アイ・シー・ジー

航空写真からAIが屋根診断

パネルの有無、新古を数値化

間取り変更などリノベーションを得意とする

アイ・シー・ジー(千葉県浦安市)は、Googleマップ



▲屋根ごとに新しさと古さを数値判定

の航空写真から屋根の状態を診断するAIシステムを開発し、昨年9月に特許出願した。

真で地図を見ることが可能だ。新システムでは指定した範囲の屋根をAIが診断する。判定できるのは2つ。まずは屋根にソーラーパネルがあるかないか。



廣瀬直樹社長

パネルがある住宅は、自動で住所のリストアップもできる。さらに、パネルのない屋根は新しいか古いかを数値で示す。例えば新しさは40%、古さは60%といった形だ。「こういう屋根は古い、新しいと私自身が判断したデータをAIに学習させ、判定できるようにしました」と廣瀬直樹社長は話す。

診断によって屋根リフォームや太陽光発電・蓄電池の見込み客がわかり、アプローチができる。古さの数値が高い住宅に重点的にチラシのポストイングや電話の営業をかける。反響率が高まるのではと効果を見込む。

現在、照明メーカーの大手であるオーテリック(東京都杉並区)が試験運用中だ。同社はソーラーパネルで発電した電気を蓄える蓄電池システムを販売している。ソーラーパネルを設置しているユーザーに特化して販促活動をしようと、AIが判定した情報を参考にしている。

今後新規客の獲得に使用していく。新規の飛び込みも受け入れられやすい法人系にアプローチするため、屋根の劣化から営業先を絞る方針だ。また全国のリフォーム会社や工務店と業務提携も行う予定だ。提携先から依頼を受けたら同社がシステムを使って調べ、廣瀬社長自身が最終チェックを行い、情報共有していく。「Googleマップは地域を限定していないので全国の航空写真をチェックできます。地元根付いた業者さんに使ってもらいたいです」(廣瀬社長)